

# 卒業生が“城東LIFE”を語る……



京都大学・教育学部 中村文香  
(総社市立総社東中学校出身)

城東高校で過ごした3年間は私にとってかけがえのない時間になりました。まず、城東には学類に関係なく外国と関わる機会がたくさんあります。私自身、海外文化体験研修に参加しカナダでホームステイをしたり、学類研修でマレーシアを、海外修学研修でイギリスを訪問したりと、入学前には想像もしなかったほど多くの経験ができました。短期間ではあるものの実際に外国に行ってみると、今まで私が知っていたのはごく狭い世界に過ぎず、世の中にはもっと多様な暮らし方、考え方があることに気付かされました。

また学校行事は生徒中心に企画・運営され、先生方も私たちのアイデアを形にできるよう、熱心にサポートしてください。特に翠緑祭の盛り上がりは最高です。活発な部活動も魅力の一つです。私も合唱部で活動しましたが岡山シンフォニーホールを丸一日貸し切って行われた定期演奏会の感動は忘れることができません。

勉強、部活、学校行事の両立は大変ですが、エネルギーに溢れた城東生と、熱心に指導して下さる先生方から、毎日元気をもらい、忙しさを楽しむことができました。勉強はもちろんのこと、様々な活動に挑戦できる素晴らしい環境のある城東高校で充実した3年間を過ごすことができ良かったと心から思います。



東京外国語大学・言語文化学部・  
言語文化学科ポルトガル語専攻 吉原玲奈  
(岡山市立竜操中学校出身)

城東高校は、生徒と先生の信頼関係があるからこそ成り立っている、城東特有の自由で明るい校風のもとで、生徒一人ひとりが自分の個性を十分に発揮できる場所です。また、勉強だけでなく、部活動や学校行事など様々な活動に全力で取り組む生徒の意欲的な姿勢には誰もが感動するでしょう。このような素晴らしい環境のおかげで、私は三年間を通して大きく成長出来たように思います。

二年次からは、得意科目であった英語を深めるために、そしてこれから必ずと言っていいほど必要となってくるグローバルな視野を養うために国際教養学類に進む事にしました。国際学類の最大の魅力は、他の学類では体験できない行事がたくさんあるところだと思います。特に印象に残ったのが、冬に行われるITC (Intensive Training Camp/ 英語集中合宿) です。英語だけを使って、ALTの先生方や友達とコミュニケーションをとり、ディスカッションやディベートなどもしました。英語を楽しく実践的に学べただけでなく、国際学類全体の絆もいっそう深まった貴重な二日間となりました。他にも、国際教養学類は学類研修で韓国の高校を訪問したり、城東高校で一番盛り上がる行事である翠緑祭では英語劇を披露します。どのイベントも自分の英語力を大いに向上させ、異文化についての深い理解を得る最高の機会でした。英語や国際関係に興味をもった生徒がたくさん集まった、毎日賑やかな教室で、仲間と支え合いながら充実した高校生活を送ることが出来ました。

城東生であったからこそ学べたこと、体験出来たことは数えきれないほどあります。それらは、すべてどんな事でもすぐに相談に乗って下さる先生方の熱心なサポート、そして「進取・協同」の精神のもと共に達成感や充実感を味わってきた最高の仲間のおかげです。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ここでの三年間の思い出は一生の宝物となる事を確信しています。



東京大学・理科二類 高杉瑞江  
(岡山市立石井中学校出身)

城東高校は生徒の自主性を重んじているので、やりたいと思ったことは大抵できるようになっています。それは部活でもいい、勉強でもいい、行事でもいい。自分がやりたいと思えば、なんでもできます。だからとにかく様々な目標を持つ人が集まっていて、多くの刺激を受けて成長していきます。

城東には様々な行事があり、一つ一つの内容はとても濃いです。その中で一番印象的だったのは翠緑祭でした。基本的にはクラス全員が忙しいのですが、その中でもどうにか時間を見つけてクラスの出し物を作っている様子を見ていると、自分も頑張るぞという気持ちが自然と出てきました。全力で取り組んだので、終わった時には大きな達成感を得ることができました。それが薄れることはありません。

理数学類では数理科学という授業があり、普通の授業でやらない実験をしたり、SGH指定校ということで、外国人の先生と一緒に数学を勉強したりします。普通の授業ではそういったことはやらないので、授業の時はいつもワクワクしていました。そして、数理科学で学んだことは学類発表会で、大学生みたくにちょっとカッコよく発表します。こういった授業も城東高校ならではの授業だと思います。



国立音楽大学・演奏・創作学科・鍵盤楽器専修 松田侑奈  
(真庭市立落合中学校出身)

城東高校は、校訓である「進取・協同」の精神のもとに、ただ自由に行動するのではなく、責任ある行動を要求される『城東の自由』を追求し、生徒一人ひとりが自主的・自律的に行動することの出来る、活発で明るい学校です。四つの学類に分かれた「単位制」による学びが特徴的で、私が選択した音楽学類では、音楽理論や、ソルフェージュのコア科目を始め、和声学、音楽史、新曲視唱、アンサンブルなど専門的な科目が多数あり、自分の進路志望に応じた学習計画を立てることが出来ます。

また、くらしき作陽大学との高大連携プログラム、私が進学したい大学を決めるきっかけとなった、県外の音楽大学教授による公開レッスン、講演会といった濃い内容の授業や、海外の高校生との国際交流もあり、グローバルな視野を持つことができ、とても充実した日々を送ることが出来ます。そして、クラスの仲間と一丸となり、生徒主体で作り上げる、中庭コンサート、翠緑祭でのミュージカル、定期演奏会を始めとした、様々な行事では、専攻楽器を演奏する機会が与えられることはもちろん、演奏以外にも、コンサートの構成、演出を考えたりといった、音楽学類ならではの、貴重な経験をすることができます。いつも私達を応援してくださった先生方、個性的で、お互いを刺激し合い、高め合っている素敵な仲間と、たくさんの音楽に囲まれた学校生活を送れた城東高校での日々は、私の中でとても大切な時間となりました。

# 卒業生が“城東LIFE”を語る…



## 城東は頑張る人を応援してくれる場所

東京大学・文科三類 岡実莉  
(岡山市立吉備中学校出身)

城東高校では、生徒一人ひとりが意欲的に様々な活動に取り組んでいます。そのような環境で過ごした3年間は、私にとってかけがえのない時間となりました。

私が思う城東の最大の魅力は、勉強、部活、行事の3つすべてに全力で取り組むことができるということです。この3つをやり遂げることは簡単ではありませんが、頑張ればその分、大きな達成感と充実感を得られます。城東の授業は内容が濃く、多くのものを得ることができます。受験期には、集中して勉強する友人の姿に刺激

され、私も頑張ることができました。そして、城東の部活は生徒主体で運営され、活発に活動しています。部活は、協力し切磋琢磨できる仲間と出会える場です。私は吹奏楽部に所属していました。翠緑祭の中庭コンサートと定期演奏会での会場の一体感は、今でも忘れられません。さらに、城東には様々な行事があります。2年次の北海道での学類研修では、アイン文化の学習や留学生との交流、自然体験などの貴重な経験ができ、クラスの仲も深まりました。そして何と言っても、城東で最も盛り上がる行事が翠緑祭です。文化の部ではクラスの団結が強まり、体育の部では学年を超えて交流できます。このように、城東での高校生活はとても充実しています。

これらの様々な活動を通して、熱心に丁寧に指導してくださる先生方や、個性豊かで、助け合い高め合える多くの仲間と出会うことができました。城東は、頑張る人を応援してくれる場所です。このような最高の環境で3年間学ぶことができ良かった、と心から思います。



## 英語力を大きく伸ばせた異文化交流

早稲田大学・文学部 岡本泉  
(瀬戸内市立邑久中学校出身)

私は英語が好きで、城東の国際教養学類にあこがれて入学しました。国際のクラスには私と同じように英語や外国文化が好きの人が集まり、毎日明るく楽しいクラスで授業を受けることができました。

城東の国際には他では体験できないグローバルなイベントがたくさんあります。学類研修では韓国的高校を訪問して、韓国文化を直接学び、韓国の友達をつくることができました。翠緑祭ではセリフがすべて英語の英語劇を自分たちで制作し、クラスみんなで協力し完成させました。そして冬に行われたITC(英語集中

合宿)では英語だけでディベートやディスカッションを行い、英語で自分の意見を伝えられるようになりました。

国際教養学類では学校生活の中でも異文化交流の機会がたくさんあります。ALTの先生の授業が多く、留学生と同じクラスで生活することができ、さらにホームステイ受け入れの体験もできます。私自身、城東ライフの中で英語に触れる機会が増えたことで、英語力を大きく伸ばすことができ、またグローバルな視野を養うことができました。

城東には勉強にも部活にも学校行事にも打ち込める素晴らしい環境があります。私はESSと放送部、翠緑祭実行委員会でも活動しました。勉強と部活の両立は大変ですが、周りにいる友達もみんな一生懸命で、先生方も熱心にサポートしてくださるので、大変な時でも頑張ろうと思えることができました。大学受験を乗り越え、自分を成長させることができたのは城東高校のおかげだと思います。



## 城東で得た絆

京都大学・薬学部・薬科学科 富岡亮太  
(岡山市立富山中学校出身)

私はこの城東高校でたくさんの仲間と出会い支え合い、充実した高校生活を送ることができました。それは自由で明るい校風の城東であったからこそ送ることができた3年間だったと思います。

まず、勉強面では生徒と先生が一体となって、学年全体で成長しようという雰囲気 genuinely が本当に好きでした。私たちの勉強意欲を向上させてくれる先生方の工夫された授業はもちろんのこと、先生方の「質問大歓迎!」という雰囲気により、勉強面に不安なことは何一つありませんでした。城東と言えば、活発な部活動も大きな魅力のひとつです。私はバスケット部に所属していたのですが、部活で流した汗と涙はかけがえのないものになりました。先生や仲間との切磋琢磨のおかげで体力的にもメンタル的にも何段階も成長することができ、この成長が勉強などの他の分野でも確実に私の支えとなって生きています。翠緑祭などの行事では「進取・協同」の精神の下、生徒が自ら企画・運営を行い、とにかく楽しい雰囲気成功の達成感と充実感は味わったことのないくらい最高のものとなりました。

城東で学んできたことは本当にたくさんあり、言い尽くすことはできませんが、どれをとっても一人でもできたことはありません。すべて同級生や先生方との絆があったからこそできたことです。私が城東で得た最も大きなものは、この城東ファミリーとの絆だったと思います。卒業した今でも、城東ファミリーの一員として3年間過ごせて本当に良かったと思います。



## 高い志を持った仲間と刺激を与え合うことができる

東京藝術大学・音楽学部器楽科チェロ専攻 岡本蒼馬  
(瀬戸内市立邑久中学校出身)

城東高校は生徒一人ひとりが、城東特有の自由な校風に基づいた自主自律の精神を持っており、活発で明るい雰囲気に包まれています。しかし決して自分中心に好き勝手にするのではなく、周りの生徒とともに協調し合いながら様々な事務に取り組んでいくことで、充実した高校生活を送ることができます。生徒が主体となって取り組んだ中庭コンサートや翠緑祭では、各々の音楽的センスと能力が最大限に発揮されており、クラスが丸となって突き進んでいく姿がそこにはありました。

私が選択した音楽学類では、音楽理論やソルフェージュのコア科目をはじめ、和声学、音楽史、新曲視唱、アンサンブル、その他にも多くの科目が用意されています。自分に適したカリキュラムを組み立てることができ、専門性を生かすという点においても、大変魅力的であると言えます。さらに、くらしき作楽大学との高大連携プログラム、県外の音楽大学教授による公開レッスン、講演会などでは大学生さながらの経験をすることができます。

また、国内外を問わず多くの交流や演奏の機会がありました。昨年の韓国の芸術高校訪問(学類研修)および台湾・中興中学音楽科との国際交流は、世界への視野を広げるきっかけとなりました。そして3年次の秋には、東京藝術大学附属高校とのジョイントコンサートがありました。私は「メンデルスゾーン：ピアノ三重奏曲」をクラスメイトとの共演により実現することができました。のちに岡山シンフォニーホールで再演しましたが、これ以上ない幸せな思い出となりました。

城東高校では同じ高い志を持った仲間が常にそばにあり、良い刺激を与え合うことができます。それを親身になって支え続けてくださった先生方への感謝の気持ちはこれからも色褪せることはありません。